

第3回農林水産専門委員会での主な意見

(エネルギー)

- ・国際的な情勢の中で、エネルギーの自給の分野はこれから大きな要因になり得るので、ここから早く手を付けていくと、この地域だけでなく日本の生産モデルの一つになり得る。他でやっていること以上に前へ前へと進んで欲しい。

(計画の実行)

- ・農業政策がこれから大きく変わっていく中で、ここに出ている部分というのは、大きな施策が変化しても疎かにしない方がいいというところがすべて盛り込まれていると感じているので、是非効果的に実行して欲しい。

(畜産振興)

- ・畜産については、なかなか解決策が見出せない極めて困難な課題なのは承知しているが、この問題にもしっかり取り組んで欲しい。

(特用林産物)

- ・きのこの苗の購入補助について、購入補助は大変魅力的だが、申請の手続きが大変なので、もう少し軽減するとともに、事業の継続をお願いしたい。

(地域マーケット)

- ・今生産しているもの、流通しているものを地域内でうまく循環させるための地域マーケットがあると、生産消費の最適化だけではなく、トータルとして大きな力になる可能性がある。

(環境保全型農業)

- ・「新規参入者向けの相談体制や情報ネットワークの構築」は環境保全型農業だけの話ではないのではないか。

(次世代の育成)

- ・次代の担い手を育てていくにあたって、定期的に顔を合わせる機会を作るなどして若い人同士のネットワークを構築するなど、長期的な人材育成の戦略を考えて欲しい。
- ・今やっている人たちが事業規模を拡大して次代に引き継ぐという事も、今後の戦略として考えていただきたい。

(総合計画全般)

- このような計画があっても、市民レベルでは全然周知されていないという事が多々あるので、その辺りの告知方法も含めてこの素案のように進んで欲しい。
- 市がこういった計画を一生懸命に進めても、市民はほとんど知らない。特に若い人たちが触れる機会がほとんどないので、若い職員が同じ年代を集めて話をする場を設けるなど、市の進む方向が伝わるような形をどこかでとれないか。
- パブリックコメントもいつも同じ人が1件2件ある程度で終わることが多い。周知に向けた職員の取組みとして、他の会議等に持ち歩いたりするだけで人から興味を持たれたりするのではないか。
- 記載すべき事項は記載されていると思うが、どこに力を入れていくのか見えづらい感じがするので、そういうところが見えるようにして欲しい。
- 字面になると後から忘れがちな、元の意見の背景になっている、本来の目的に対して効果があるような形で実践して欲しい。
- こういった基本計画を作っていく際に、具体的な数値目標を入れるのは適切ではないのか。